

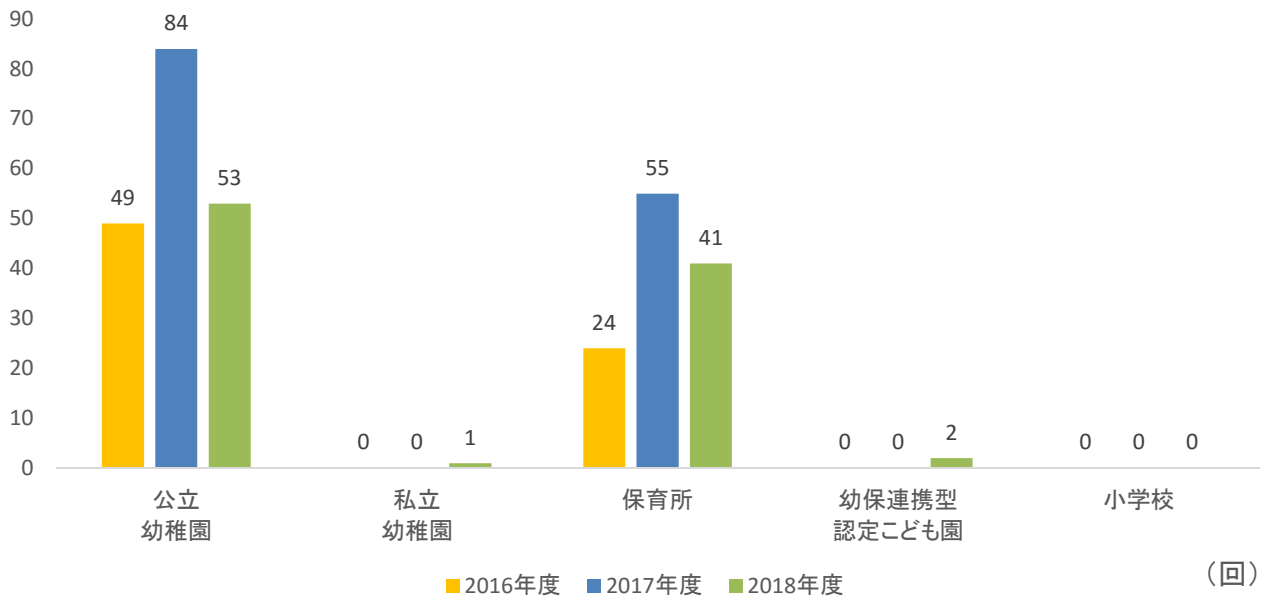
平成 28 年度～平成 30 年度「幼児教育の推進体制構築事業」最終報告書

調査研究テーマ	ア. 幼稚園、保育所、認定こども園等を巡回して指導・助言を行う「幼児教育アドバイザー」の育成・配置に関する調査研究（幼児教育アドバイザーとして必要とされる資質・能力に関する研究を含む）
調査研究目的	・ 幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育所及び認定こども園の具体的・実践的な研修体制の構築 ・ 幼稚園・保育所及び認定こども園の枠をとりはずした連携・研修体制の構築
調査研究課題	・ 教育を主体とする幼稚園と養護を主体とする保育所の制度の違いからくる意識の隔たりや保育時間が異なることにより研修時間の確保が難しいこと等から、双方の質を高めることにつながる研修ができていない。 ・ 保育所において、新規採用職員を含めた研修の機会が少なく、職員の資質向上につながる十分な研修ができていない。 ・ 公私立幼稚園、保育所（園）及び認定こども園の互いの教育・保育について学び、共に幼児教育・保育の質の向上を目指すことができていない。
実施期間	平成 28 年 6 月 17 日～平成 29 年 3 月 31 日 平成 29 年 4 月 14 日～平成 30 年 3 月 30 日 平成 30 年 4 月 13 日～平成 31 年 3 月 29 日
事業担当課	さぬき市健康福祉部子育て支援課幼保連携推進室

【基礎情報】

① 規模															
人口			48,786 名（平成 31 年 2 月 28 日時点）												
② 幼児教育関連業務の担当部署															
担当部署			子育て支援課幼保連携推進室				業務内容（業務分担）				幼稚園・保育所・こども園関係				
一元化の有無			有				一元化の開始時期				平成 28 年 4 月 1 日～				
一元化した部局			教育委員会／首長部局												
③ 幼児教育センター（H30 年度）															
設置年度			・ 設置せず				設置形態								
設置場所							人数								
主な業務内容															
④ 幼児教育アドバイザー（H30 年度）															
名称			人数（単費内訳）				雇用形態				主な経歴				
さぬき市幼児教育アドバイザー			4 名				謝金（4 名）				元幼稚園長（2 名） 元保育所長（2 名）				
主な業務内容			・ 幼児教育アドバイザー 幼稚園・保育所への巡回訪問による指導・助言 合同研修会・座談会等での指導、助言												
派遣対象地域			・ さぬき市内全域												
⑤ 全幼稚園数、認定こども園数、小学校数、保育所数（園）															
※ 幼稚園・小学校：平成 30 年 5 月 1 日現在、認定こども園・保育所：平成 30 年 4 月 1 日															
幼稚園						幼保連携型 認定こども園			保育所				地方裁量型 認定こども園		小学校
うち、幼稚園型 認定こども園									うち、保育所型 認定こども園						
9 園						2 園			9 園				1 園		8 校
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私	
-	8	1	-	-	-	-	-	2	6	3	-	-	-	-	

幼児教育アドバイザーの訪問回数(年間)



※ 公立幼稚園数には、国立と公立を含む。

【調査研究の目的、内容、成果及び今後の課題】

1. 事業受託前の取組状況
<p>本市の幼児期における特別支援教育に関しては、平成 24 年度から「早期からの支援体制・構築事業」に取り組み、市内全体での合同研修会や情報交換会等を毎年、開催しており、公私立を問わず、幼稚園・保育所（園）の連携しやすい関係性を構築してきた。</p> <p>また、就学前教育・保育の質の向上に向けた取組に関しては、幼稚園・保育所が互いの教育・保育について知り、理解していくために、公立の幼稚園・保育所の合同研修会や公開保育参観を開催している状況である。</p> <p>このような中、これまで幼稚園は教育委員会事務局学校教育課、保育所（園）は健康福祉部子育て支援課と所管が異なっていたが、就学前の子どもに双方が携わっていることから、地方自治法 180 条の 7 に基づく補助執行として平成 28 年 4 月より健康福祉部子育て支援課幼保連携推進室として幼稚園と保育所の所管が一本化された。このことにより、幼稚園と保育所の連携強化に向けた合同研修会や研究に一層取り組みやすい体制になった。</p>
2. 事業を受託した経緯
<p>公立の幼稚園・保育所の合同研修会や公開保育参観を開催する等、幼稚園と保育所の連携に取り組んでいる状況であるが、教育を主体とする幼稚園と養護を主体とする保育所の制度の違いからくる意識の隔たりや保育時間が異なることにより研修時間の確保が難しいこと等から、双方の質を高めることにつながる研修の在り方については、課題が生じている。特に幼稚園においては、新規採用教員に対する指導員が配置され、年間を通しての研修体制が充実しているが、保育所においては、新規採用職員を含めた研修の機会が少なく、資質向上につながる十分な研修ができていない現状にあった。</p> <p>そこで、専門知識と豊富な実践経験を有する元幼稚園長と元保育所長を幼児教育アドバイザーとして委嘱し、若年層職員を中心に実際の保育を見ながら、具体的に指導・助言していただくことで、教職員にとって生きた研修になり、実践的な研修体制の構築ができると考えた。特に、保育所の新規採用職員に対しても年間を通し研修体制を構築することができる。また、平成 29 年度、平成 30 年度に各 1 園、平成 31 年度には 3 園の幼保連携型認定こども園が開園する予定であることから、幼稚園、保育所（園）及び認定こども園の校種や、公私立の枠を越えての、就学前教育・保育に携わる教職員の情報交換や様々な研修の場を提供することができ、より高い質の向上を目指すとともに、幼稚園、保育所（園）及び認定こども園の連携を更に推進していきたいと考える。</p>
3. 調査研究の目的及び内容
<p>(1) 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育所（園）及び認定こども園の具体的・実践的な研修体制の構築 ○幼稚園・保育所（園）及び認定こども園の枠をとりはずした連携・研修体制の構築 <p>(2) 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門知識と現場での豊富な実践経験を有する元園長（所長）に幼児教育アドバイザーを委嘱し、各園（所）を巡回訪問することで現場での実際の保育を見ながら、具体的に指導・助言をする。そうすることで、実践的な研修体制を構築していく。 ・幼児教育アドバイザーの巡回訪問については、指導主事が事業説明を園長・所長に行い、各園（所）の課題に添って訪問できるよう調整を取っていく。指導主事は幼児教育アドバイザーからの巡回訪問記録やアドバイザーとの同行により、市内の幼児施設の状況を把握するとともに、アドバイザー連絡会において成果や課題を共有し、今後の訪問体制を考えていく。 ・外部講師による幼稚園・保育所（園）・こども園の合同研修会を行うことで、教職員の質の向上を図る。更には、幼稚園・保育所及び認定こども園の枠を越えて、また、公私立の枠を越えて、就学前教育・保育に携わる教職員の情報交換や様々な研修の場を設定することで、質の向上を目指すとともに、幼稚園・保育所（園）及び認定こども園の連携を更に推進していく ・合同研修会については、指導主事が計画をしていく。研修会に幼児教育アドバイザーも参加し、指導・助言をすると共にアドバイザー自身のスキルアップにもつなげていく。アドバイザー連絡会において研修内容等について話し合い、今後の研修体制を考えていく。

4. 3年間の取組・成果・課題							
(1) 取り組みについて							
	実施した主な取組	実施目的	対象	内 容	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)
①	幼児教育アドバイザー巡回訪問	・保育についての個人指導や園内研修の指導を行い、教職員の資質向上を図る。	公立幼稚園 公立保育所	市内の公立幼稚園・保育所に幼児教育アドバイザーが訪問し、保育や園内研修について具体的に指導・助言を行う。	77回	81回	75回
②	幼保こ合同研修会	・幼児教育についての理解を深める。	公私立幼稚園 公私立保育所(園) 私立認定こども園	外部講師を招いて、幼児教育についての研修。幼稚園訪問・保育所訪問研修の公開保育に参加し、互いの保育について知る。	17回	17回	17回
③	幼保こ合同座談会	・座談会での情報交換を通して、互いの教育・保育について学ぶ。	公私立幼稚園 公私立保育所(園) 私立認定こども園	情報交換及び悩みについて相談し合う。	4回	6回	5回
④	幼保こ合同実技研修会	・保育技術の習得による保育力の向上を図る。	公私立幼稚園 公私立保育所(園) 私立認定こども園	具体的・実践的な実技研修をする。	3回	5回	5回
⑤	保幼こ小理解研修会	・幼児教育と小学校教育の円滑な接続の在り方と互恵性について探る。	公私立幼稚園 公私立保育所(園) 私立認定こども園	互いの教育について学んだり、情報交換したりする。	1回	1回	1回
⑥	幼稚園現場研修	・各園の課題をふまえた研修を行い、園全体のスキルアップを図る。	公立幼稚園	外部講師を招き、園内の全職員で同じ研修を受ける。	40回	40回	40回
⑦	幼児教育アドバイザー一連絡会	・幼児教育アドバイザーの資質向上を図る。	幼児教育アドバイザー	指導・助言等に関する情報交換等	3回	3回	3回
⑧	調査研究実行委員会	・教職員の資質向上につながる研修体制の構築の方向性について探る。	幼児教育アドバイザー 幼稚園長会長 保育所長会長	研修について探ったり、外部講師からの指導助言を受けたりする。	2回	2回	2回
⑨	アンケート調査 報告書作成・配布	・関係者への周知し、職員の資質向上の取組の指標とする。	公私立幼稚園 公私立保育所(園) 私立認定こども園	3年間の取組等をまとめたものを冊子にし、各園(所)に配布する。	1回	1回	1回

①幼児教育アドバイザー巡回訪問（公立対象） 〈訪問回数〉

園・所名	28年度	29年度	30年度	合計
津田幼稚園	8	8	5	13
鶴羽幼稚園	7	8	7	22
さぬき南幼稚園	8	1	1	9
志度幼稚園	9	3	3	12
さぬき北幼稚園	10	6	6	16
寒川幼稚園	10	8	5	23
長尾幼稚園	8	5	5	13
造田幼稚園	9	9	8	17
津田中央保育所	8	8	5	13
津田東部保育所	8	8	5	13
富田保育所	8	8	6	22
志度保育所	9	8	7	24
寒川保育所	8	8	6	14
長尾保育所	8	8	6	22
合 計	77	81	75	233

②幼保こ合同研修会 〈参加人数〉

(1) 幼稚園訪問・保育所訪問研修の保育参観

研 修 会 名	28年度	29年度	30年度	合計
幼稚園訪問 保育参観	96	103	93	292
保育所訪問研修 保育参観	53	53	50	156

(2) 職員研修

▼平成 28 年度

(講師) 香川大学名誉教授 金子之史 氏

- ・ 7 月 1 日(金) 環境構成について～津田幼稚園のいいところ探しをしよう 11 名参加
- ・ 10 月 28 日(金) ビデオ研修～幼稚園新規採用教員研修用ビデオ視聴 13 名参加
- ・ 11 月 16 日(水) エピソード研修～エピソードを基にグループ協議 16 名参加 合計 40 名

▼平成 29 年度

(講師) 香川大学名誉教授 金子之史 氏

- ・ 7 月 3 日(月) ビデオ研修「3年間の保育記録～3歳児前半」視聴・グループ協議 12 名参加
- ・ 7 月 21 日(金) ビデオ研修「3年間の保育記録～3歳児後半」視聴・グループ協議 16 名参加
- ・ 10 月 6 日(金) ビデオ研修「3年間の保育記録～4歳児」視聴・グループ協議 10 名参加
- ・ 11 月 8 日(水) ビデオ研修「3年間の保育記録～5歳児」視聴・グループ協議 11 名参加

(講師) ぼちぼち文庫 高重裕子 氏

- ・ 1 月 17 日(水) 講話「絵本について」 16 名参加 合計 65 名

▼平成 30 年度

(講師) 香川大学名誉教授 金子之史 氏

- ・ 5 月 22 日(火) 事例研究の進め方(記録からの読み取り)について 15 名参加
- ・ 7 月 27 日(金) 事例研究の進め方(記録からの読み取り)について 12 名参加
- ・ 10 月 23 日(火) 事例研究の進め方(記録からの読み取り)について 15 名参加
- ・ 11 月 7 日(水) 事例研究の進め方(記録からの読み取り)について 8 名参加

(講師) 幼児教育支援員 香川大学教育学部准教授 吉川暢子 氏

香川県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事 九郎座 仁美 氏

- ・ 8 月 31 日(金) 公開保育「一緒に遊ぶって楽しいね」・研究討議 14 名参加 合計 64 名

③ 幼保こ合同座談会

▼平成 28 年度

- ・ 11 月 15 日(火) 若年対象(経験年数 1～5 年目) 17 名参加
- ・ 11 月 28 日(月) 主任業務を担っている方 18 名参加
- ・ 1 月 23 日(月) 中堅対象(経験年数 6 年以上) 16 名参加
- ・ 1 月 30 日(月) 主任業務を担っている方 14 名参加 合計 65 名

▼平成 29 年度

- ・ 6 月 16 日(金) 若年対象(経験年数 1～5 年目) 14 名参加
- ・ 6 月 26 日(金) 主任業務を担っている方 15 名参加
- ・ 10 月 20 日(金) 幼保こ小交流について 10 名参加
- ・ 11 月 16 日(木) 初めて参加する方 12 名参加
- ・ 1 月 24 日(水) 幼児教育について 17 名参加 合計 82 名

▼平成 30 年度

- ・ 6 月 13 日(水) 主任業務を担っている方 15 名参加
- ・ 6 月 18 日(月) 若年対象(経験年数 1～5 年目) 12 名参加
- ・ 8 月 30 日(木) 運動会の種目について 20 名参加
- ・ 9 月 7 日(金) 中堅対象(経験年数 6 年以上) 16 名参加
- ・ 11 月 8 日(木) 教職員の体ほぐし 12 名参加 合計 75 名

④ 幼保こ合同実技研修会

▼平成 28 年度

- ・ 8 月 2 日(火) 18 名参加
- ・ 8 月 4 日(木) 17 名参加
- ・ 1 月 26 日(木) 22 名参加 合計 57 名

(講師) 香川大学非常勤講師 健康運動指導士 石田佳二 氏
 ・ 講話『幼児期の発達的特徴に応じた運動指導のあり方』
 ・ 実技 幼児への指導

▼平成 29 年度

- ・ 7 月 24 日(月) 17 名参加
- ・ 8 月 8 日(火) 26 名参加
- ・ 11 月 10 日(金) 19 名参加
- ・ 12 月 18 日(月) 17 名参加

(講師) 香川大学教育学部附属高松小学校非常勤講師
 志度音楽ホール少年少女合唱団指導者 國方里佳 氏
 ・ 実技 幼児への指導 ・ 教職員対象の実技研修

- ・ 2 月 9 日(金) 11 名参加 合計 90 名

(講師) 香川大学非常勤講師 健康運動指導士 石田佳二 氏
 ・ 講話『こどもの発達に応じた運動あそびとその指導について』
 ・ 実技 幼児への指導

(講師) ぼちぼち文庫 高重裕子 氏
 ・ 講話『絵本の読み聞かせについて』
 ・ 実技 乳児・幼児への絵本の読み聞かせ

- ▼平成 30 年度 ・ 7 月 2 日(月) 7 名参加
- ・ 7 月 9 日(月) 13 名参加
- ・ 11 月 12 日(月) 8 名参加
- ・ 10 月 18 日(木) 12 名参加 合計 54 名

(講師)香川大学教育学部付属高松小学校非常勤講師
志度音楽ホール少年少女合唱団指導者 國方里佳 氏
・ 実技 幼児への指導 ・ 教職員対象の実技研修

(講師)センダアトリエ絵画造形教室 美術講師 山田豊実 氏
・ 講話 『絵画・造形について』
・ 実技 幼児への指導

⑤保幼小理解研修会

〈参加人数〉

	開催日	小学校	幼稚園	公立保育所	私立保育園	合計	講師 及び 提案者
28 年度	1 月 20 日(金)	10	16	5	4	35	(講師)香川大学名誉教授 金子之史 氏 (提案者)幼児教育長期研修生 佐藤裕子 先生
29 年度	1 月 19 日(金)	8	11	6	6	31	(講師)香川大学名誉教授 金子之史 氏 (提案者)幼児教育長期研修生 川口祐貴子先生
30 年度	1 月 18 日(金)	8	10	4	6	28	(講師)香川大学名誉教授 金子之史 氏 (提案者)幼児教育長期研修生 川口祐貴子先生

⑦⑧幼児教育アドバイザー連絡会・調査研究実行委員会

	第 1 回さぬき市幼児教育アドバイザー連絡会	第 1 回調査研究実行委員会 第 2 回さぬき市幼児教育アドバイザー連絡会	第 1 回調査研究実行委員会 第 3 回さぬき市幼児教育アドバイザー連絡会	参加者
28 年度	7 月 7 日(木)	12 月 9 日(金)	2 月 24 日(金)	調査研究実行委員 3 名 さぬき市幼児教育アドバイザー 5 名
29 年度	5 月 26 日(金)	12 月 15 日(金)	2 月 26 日(月)	調査研究実行委員 3 名 さぬき市幼児教育アドバイザー 4 名
30 年度	4 月 25 日(水)	12 月 19 日(水)	2 月 25 日(月)	調査研究実行委員 3 名 さぬき市幼児教育アドバイザー 4 名

(2) 実施した各取組の 3 年間の成果 (○) と課題 (●) について

①幼稚園・保育所への幼児教育アドバイザー巡回訪問指導

- 保育所への巡回訪問については、28 年度は新規採用職員の在籍する保育所 (3 所) へ巡回訪問をしたが新規採用職員を含めた研修の機会が少ないこともあり職員全体の資質向上を考え、29・30 年度は全所 (6 所) にアドバイザーが巡回訪問を実施した。このことにより新規採用職員及び経験年数の異なった教職員への指導助言ができ、全教職員のスキルアップにつながった。また、自園での偏った見方や考え方ではなく、違った視点や立場から幼児や教職員を見ての指導・助言があったことで教職員の自信につながった。
- 幼稚園への巡回訪問については、新規採用職員には県の指導員が配置されることで新採職員自身の指導は充実しているため、28・29 年度は新規採用職員が所属していない園 (28 年度 6 園、29 年度 4 園) に実施。しかし県の指導員は新規採用職員に対しての指導であり園全体の教職員の指導までは至らないため園全体の向上につながらないという課題から 30 年度は全幼稚園 (8 園) に巡回訪問を実施した。このことにより、若年層職員や園内研修についての指導や囑託園長 (元校長先生 2 名) に対しての幼児教育についての助言ができ、園全体の向上につながった。
- 園長・所長等の立場ではなく、第三者の関係性をもった幼児教育アドバイザーが園に入ることによって教職員が悩み等の相談がしやすかったり、アドバイザーからの保育内容やマナー等の指導も聞き入れやすかったりした。園内の潤滑油的な役割を担うことで、園の資質の向上が見られた。
- 継続的に巡回訪問することで、信頼関係を築くことができ、子どもの育ちや教職員への指導の成果や課題を見極めながら指導・助言を行うことができた。
- 28・29 年度においては、1 園(所)に年間 8 程度と回数を指定していたが、園(所)によっては回数をこなすことに重きが置かれ、負担に感じているところもあった。そのため、その園(所)全体の資質が向上するような巡回訪問になるように、30 年度は事業の開始前に各園(所)に希望回数と内容についてアンケートを実施し、各園(所)の課題等の実態に合わせて活用できるようにした。各園(所)の課題を踏まえた上で巡回訪問することで、課題の解決に向けてのアドバイザーの活用ができるようになり、園全体の資質向上につながった。
- 幼児教育アドバイザーより個人指導における指導・助言が十分に伝わっているか疑問であるという課題があがったことから 30 年度は訪問後、各園(所)よりアドバイザーによる指導・助言についての簡単な報告書を提出してもらい、幼児教育アドバイザーの指導・助言内容が伝わっているかを検証することによりそれぞれのアドバイザーが次回以降の訪問で生かせるように工夫していった。また、幼児教育アドバイザーにも訪問記録の提出を依頼し、指導方法等を今後の主任等の指導力向上に役立てるようにした。このように巡回訪問の記録やアンケート結果を定期的に共有することで、緊密な情報共有を図り、幼児教育の質の向上を図っていける体制ができつつある。
- 私立園(所)への巡回訪問が実施できていない。まずは、市で行っている公私立保育園の保育所訪問研修での公開保育、

研究討議の機会に幼児教育アドバイザーが訪問することで私立園にも指導・助言を行い、幼児教育アドバイザーの認知度を高め、園内で活用できるよう周知し、園全体の質の向上を図れるようにしていきたい。

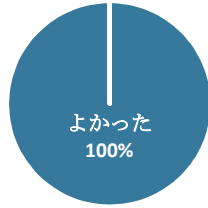
- 教職員数が多い保育所では、幼児教育アドバイザーの指導・助言を受けられていないことも多い。個人指導においては指導・助言を受けたことを一人だけの学びとせず、学びを他の教職員にも広げられる手立てを考えていきたい。また、教職員が自ら学びたいという意欲をもち、主体的になれるように今後の巡回訪問の在り方を探っていきたい。

【アンケート結果より】調査時期：平成30年10月

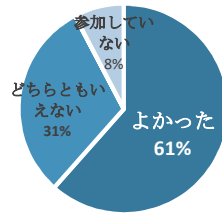
〈質問〉幼児教育アドバイザーによる巡回訪問(公立のみ)を受けて、どうでしたか？

▼調査対象：園長・所長・・・19名

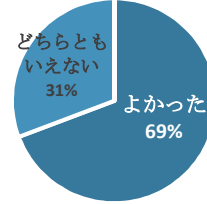
(1)個人の保育指導



(2)園内・所内研修の指導



(3)行事等の指導

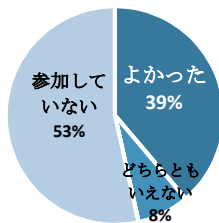


(自由記述抜粋)

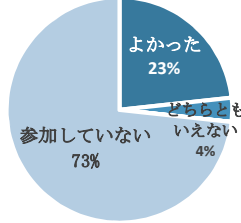
- その個人に合った指導をしてくださったので参考になった。先生方も聞きたい部分、課題について話し合える時間がもてて良かった。
- 研究保育、事例検討等、教職員だけとするよりも協議に深まりや広がりができ、教職員の資質向上や園としての行事のレベルアップに大変貢献していただいた。
- 個人の保育指導では、保育指導案の書き方や保育に対しての指導が、今後の保育への改善につながる点では良かったと思う。

▼調査対象：教職員・・・174名

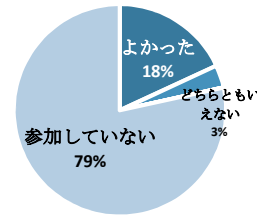
(1)個人の保育指導



(2)園内・所内研修の指導



(3)行事等の指導



(自由記述抜粋)

- アドバイザーの先生がこちらの要望に合わせて回数や日程を調整して訪問してくださり、とてもよかった。
- 研究保育を見ていただき、課題を子どもたちに提示し、考えさせる大切さを知ることができた。
- 幼児教育アドバイザーの先生の指導・助言はとてもよかった。いろいろなアイデアや見方を教えて頂けるのでとても勉強になった。来年も来て頂きたい。
- 自分では気付くことができなかった事など様々な留意点や工夫点に気付くことができてよかった。

②幼保こ合同研修会

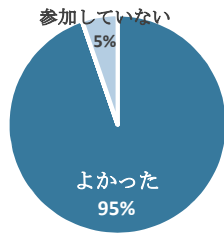
- 幼稚園訪問参観、保育所訪問研修参観については既存の幼稚園訪問や保育所訪問研修の公開保育に合わせてすることで、教職員にとっては公開保育の提供がしやすく公私立や校種の枠を越えて参観することができ、互いの教育・保育を学ぶ機会となった。また、幼児教育アドバイザーも参観することで幼稚園、保育所での教育・保育を学ぶことができ、巡回訪問等の指導・助言に活かすことができた。28・29年度の保育参観後のアンケートについて、感想に留まりその後の保育に活かせるものとなっていないという課題から、30年度は公開保育の参観記録を見直し、観点となる項目を示すことでより具体的な視点で参観できるようになった。また、その参観記録、指導案等を園(所)内で回覧し、園(所)全体の学びにつなげるようにしたことで、多くの教職員の学びにつながった。
- 外部講師を招いての研修会では、専門的な立場からの指導をいただき、幼児教育アドバイザーや教職員のスキルアップにつながった。また、グループ討議を取り入れることで、自分の思いを語ったり、他の職員の思いを傾聴したりしながら、学び合うことができた。30年度は合同研修会での研修記録を見直し、研修会での学びを振り返りながら記録を書くようにし、その記録を基に、園(所)全員の教職員の学びにつなげるようにしていった。
- 28・29年度は研修会の回数が増えてきたことで、教職員の負担も増え参加人数が減ってきていたことから30年度は教

職員が積極的に合同研修会等に参加できる体制を更に強化できるよう本事業の取組等を園長・所長・主任等に十分に説明していった。また、アンケート等により、現場の教職員の要望も取り入れ、興味や関心がある研修会等を立案していくことにより、教職員が主体的に学ぼうとする意欲をもてるようにしていったが、園(所)内の職員体制等により参加人数は伸びていない。今後、幼児教育アドバイザーの意見を聞きながら研修回数や対象、内容等を十分精選していくことが必要である。

【アンケート結果より】調査時期：平成 30 年 10 月

▼調査対象：園長・所長・・・19 名

〈質問〉幼稚園訪問、保育所・こども園訪問研修の保育参観に教職員が参加してどうでしたか

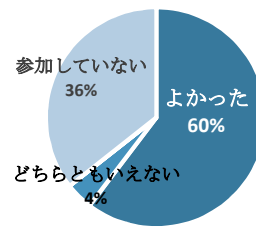


(自由記述抜粋)

- 参加した先生のスキルアップになったと思う。保育の中に取り入れていこうとする先生もいて、早速実行に移している。
- 訪問研修の保育参観では、他の園の環境等また保育の良さも学び、新しい知識になったと感じている。
- 他の幼稚園、保育所(園)等に訪問して保育を見学する機会がないので、研修を計画してくれてとてもありがたい。

▼調査対象：教職員・・・174 名

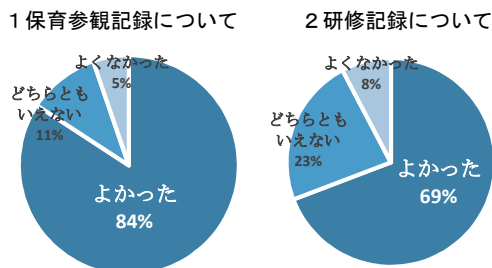
〈質問〉幼稚園訪問、保育所・こども園訪問研修の保育参観に参加してどうでしたか



(自由記述抜粋)

- 他園の保育の様子や環境を見ることで、自分の保育を見直したり、改善したりしていくことに繋がった。
- 参観記録は観点別に分かれており、書きやすかった。
- 参観記録をいろいろな先生が書いてくれていたことで、自分の保育を振り返ることができた。
- 参加した先生方の話を聞き、職員同士の研修報告などで、参観の様子や研修会の内容を共有した。普段は見ることのできない園(所)の保育を見て学べるのがたくさんあるのでよかったと思う。

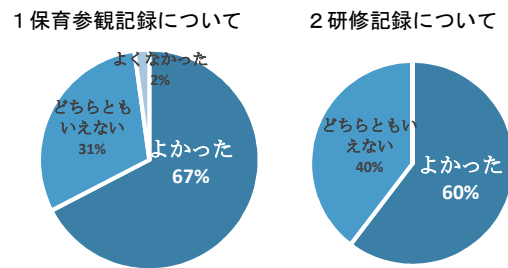
〈質問〉教職員から提出された保育参観記録、研修記録についてどう思いますか



(自由記述抜粋)

- 参加した先生方も勉強になり、また記録を見せていただき、内容が分かって良かった。
- ただ見るだけでなく文章化することで文章を書く力にも繋がられた。
- 記録を書くことで、自分の学びになり、職員間にも回覧したことで共に学びに繋がったことは、良かった。
- 時間的余裕がなく、書くことが負担になっていた。

〈質問〉保育参観記録、研修記録についてどう思いますか



(自由記述抜粋)

- 保育についての観点の項目があり、書きやすかった。
- 参観記録を書くことで、参観したことを振り返り、自分の保育に活かすことができた。
- 記録を回覧することで、他の職員と保育について話すことが増えてきた。
- こういったことを書いたらいいか悩み、書くことが負担になることがあった。

③幼稚園・保育所(園)・こども園の合同座談会

- 28 年度は、互いの悩みを話しやすい雰囲気の中で座談会をすることで互いの校種を越えてのつながりができてきた。29 年度はそのつながりを基盤にテーマを決めて情報交換を行うことで互いの教育・保育に関心をもち、学ぼうとする意欲につながっていった。30 年度はキャリア段階、テーマ、リフレッシュ等を踏まえ内容を工夫していくことで同年齢等の横のつながりも広がりつつある。また幼児教育アドバイザーがグループ討議に入ること、悩み等についての助言ができ、教職員にとっての学びにつながっている。今後も座談会を通して校種を超えてのつながりや同年齢のつながりを広めていくことで、保育を語れる関係性ができ、幼児教育の質の向上につながっていけるようにする。

【アンケート結果より】調査時期：平成 30 年 10 月

▼調査対象：教職員・・・174 名

(自由記述抜粋)

- 悩みや苦労を共有し合い、努力していることなども話せたので自分自身ももっと頑張ろうと思えた。また、近い年齢の先生方と知り合うことができたのもよかった。
- 知っている先生が市内にどんどん増えていくことで人間関係にも深まりや広がりができ、よかった。
- 幼稚園と保育所の先生とそれぞれ話せたので、違いや他の園の様子も分かって参考になった。
- 週案の話し合いや他園の取り組みを聞くのはいいと思う。とても参考になった。話し合うグループを幼稚園・保育所・こども園等分けてくれると話しが広がりやすかった。
- 職員向けの体ほぐし（ストレッチや筋トレ方法）は、他の園の先生と関わられたり、話したりできたのでよかった。定期的にしてほしい。
- 座談会である程度のテーマを事前に決めて知らせてくれるとより深い話ができそうだった。

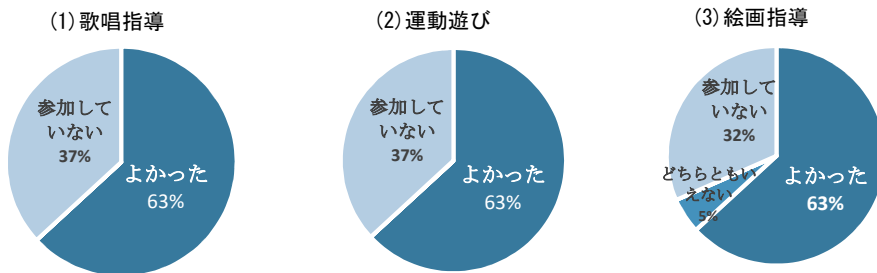
④幼稚園・保育所(園)・こども園の合同実技研修

○ 28 年度は運動遊びの研修を実施した。参加者へのアンケートでは自分の保育にすぐに活かせる内容であり、研修を受けて大変よかったという意見が多かった。29 年度は、回数を増やし、運動遊び・歌唱指導・読み聞かせの研修を実施した。研修を実施した園(所)については、職員が多く参加でき、職員の学びにつながったということから 30 年度はアンケートを実施し、現場の教職員の要望も取り入れた研修会を立案し、教職員が主体的に学ぼうとする意欲をもてるようにしていった。29 年度の内容に絵画指導の研修を加え、専門の指導者による子どもや教職員への指導を受けることで、自分の保育にすぐに活かせる、教職員のスキルもあがった。また、幼児教育アドバイザーも共に研修を受けたことで、専門性を高めることができ、そのことを巡回訪問の指導に活かすことができた。

【アンケート結果より】調査時期：平成 30 年 10 月

▼調査対象：園長・所長・・・19 名

〈質問〉合同実技研修会に教職員が参加してどうでしたか。

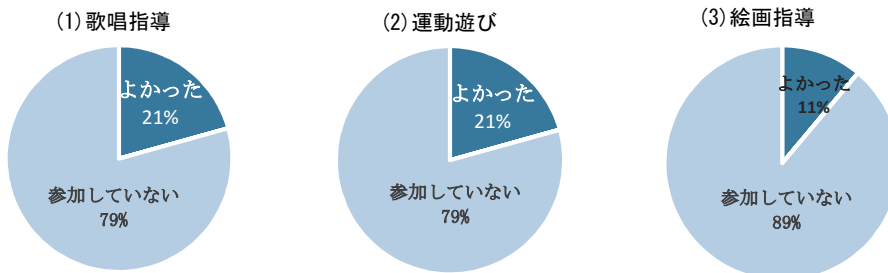


(自由記述抜粋)

- 歌唱指導や絵画指導等、専門の先生が教えてくださることで、固定概念がくつがえされたり、スキルアップにつながったりして良かった。
- 苦手な分野についても、先生方一人一人が勉強になりよかった。
- 実技研修や保育参観等、現場ですぐに役立つ内容のものは意欲的に参加できた。専門家や大学の先生等にきていただいで話を伺ったり、演習したりすることは大変良かった。
- 参加した職員から、講師の指導が分かりやすく良かったという意見が多かった。

▼調査対象：教職員・・・174 名

〈質問〉合同実技研修会に参加してどうでしたか。



(自由記述抜粋)

- 専門の先生が教えてくださる実技研修は、たいへん勉強になり、早速保育の中に取り入れた。
- 歌唱指導に来て頂き、普段目や耳にしない先生との出会いや歌声を聴くことができ、貴重な時間を過ごすことができました。また、息の吸い方や発声の仕方を分かりやすく指導して頂き、とても勉強になった。
- 講師の先生が実際に子どもたちに教えるところを見ることができ、とても分かりやすくてよかった。
- 運動遊びは基本的動作の説明も入っていたので、この動きでどうということが身につくのが分かりやすかった。
- 参加人数が少なかったので、研修を午後からにする等、工夫してほしい。

⑤保幼小理解研修会

- 幼稚園・保育所・こども園・小学校の教職員が一堂に会し、幼児教育を小学校教諭に知ってもらったり、小学校の様子を聞いたりすることで小学校へのつながりを互いが意識できるようになってきた。互いの教育について話をすることで、少しずつ連携がとりやすくなってきている。30年度は、幼児教育をより多くの小学校教諭に知ってもらえるようにDVDを使って具体的な子どもの様子について語りあったり、実際の小学校1年生の様子を見て話しあったりすることで互いの教育を理解する研修会となった。研修会に幼児教育アドバイザーが参加することで、幼稚園、保育所の立場から助言をしていただき、より小学校へ幼児教育を伝えることができた。今後は、幼児教育アドバイザー自身が研修で学んだことを、巡回訪問時の指導に活かして欲しい。また、保幼小連携の在り方を探っていけるような研修内容について幼児教育アドバイザーの意見を聞きながら考えていきたい。

【アンケート結果より】調査時期：平成31年1月

▼調査対象：小学校教諭…8名 幼稚園教諭…11名 保育士…10名

(自由記述抜粋)

▼小学校教諭の感想

- 保育所・幼稚園・こども園の先生の考えを聞くことで、苦勞したり、子供に育てたい力をよく考えたりしていることがよく分かった。小学校としてスタートカリキュラムを考え、1年生が安心して小学校生活を過ごせるよう具体的に相談していききたい。今日学んだことを職員会等で伝え、全職員が共通理解できるようにしていきたい。
- このような研修会があることで、幼稚園・保育所について考える機会をいただけてとてもよかった。
- 互いの教育、保育についてももっと情報交換をしていくべきだと感じた。長期研修生(小学校教諭が1年間幼稚園で研修する)の実践報告もとても参考になった。

▼幼稚園教諭の感想

- 小学校での様子を細かく聞く機会があまりないので、とてもよかった。自分自身の固定概念にも気付くことができ、子供達との関わりや保育にも活かしていきたいと強く思った。
- 小学校での授業の方法などへの理解、幼稚園での遊びの様子などをつなげていくために連携の必要性を感じた。これからなめらかな接続の方法など考えていきたいと思った。
- 小学校にスタートカリキュラムがあることで、幼児教育で大切にしていることが繋がっていくことが分かりよかった。“ゼロからのスタートじゃない”という考え方は、ステキだと改めて感じた。

▼保育士の感想

- 研修参加し、保育所、幼稚園、こども園、小学校の先生が子どもの育ちや発達について話し合える場をもつことができて勉強になった。子どもの姿や事例、それに対する関わりや思いを話すことで、保育所・幼稚園～小学校までの発達を支援していける関わりや環境を繋いでいけるのだと思った。
- 小学校までに、幼児期でどのようなことを身につけておいたら良いのか、幼児期に大切にすべき事等、大変勉強になった。小学校の先生が幼稚園で研修を受けたというのを聞いて、保育園や幼稚園の先生も小学校で研修を受けたり話を聞く機会があればいいなと思った。

⑥幼稚園現場研修

- 園外の研修では、全職員が参加することができないが、各幼稚園に講師を招き、実際の保育の中で具体的・実践的な研修を行うことで全職員が共通の研修をうけることができた。また、各園での課題をふまえた上での研修に合わせた講師を招くことで、様々な分野の研修をすることができ、園全体のスキルアップにつながった。
- 保育所には実施できていないので、現場研修を周知する等をして研修の場を広めていきたい。

⑦幼児教育アドバイザー連絡会 ⑧調査研究実行委員会

- 各幼児教育アドバイザーの指導及び助言方法について情報交換することで、今後の巡回訪問時の指導につなげることができた。また、その園(所)で課題とすることを共有し、質の高い幼児教育を目指した研修体制の在り方を話し合うことができた。
- アドバイザーが4名のため、情報交換についても偏りがあったり、なかなか意見が出て来なかったりする。アドバイザー自身の学びを広げるためにも、香川県の「幼児教育推進体制構築事業に係る連絡協議会」に参加したり、県に配置され

ているスーパーバイザーや他市・町のアドバイザーと情報交換を行ったりして今後の支援体制やアドバイザーの育成について検討していきたい。

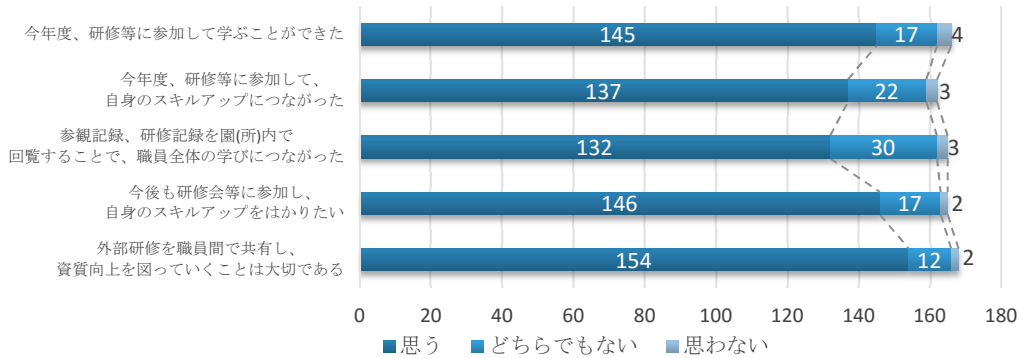
⑨幼稚園・保育所(園)及び認定こども園の教職員に対するアンケート調査

○ 29年度アンケートを実施することで、教職員一人一人の意見を聞くことができ、30年度の研修会等の在り方について参考とすることができた。30年度のアンケートより、アドバイザーの巡回訪問、幼保こ合同研修会に参加することで83%の教職員が自身のスキルアップにつながったと思うという回答が得られた。また今後も研修会に参加し、自身のスキルアップを図っていききたいと思うと回答した割合も高いことから、教職員自身が学びたいと思う意欲の高まりを感じ取ることができる。

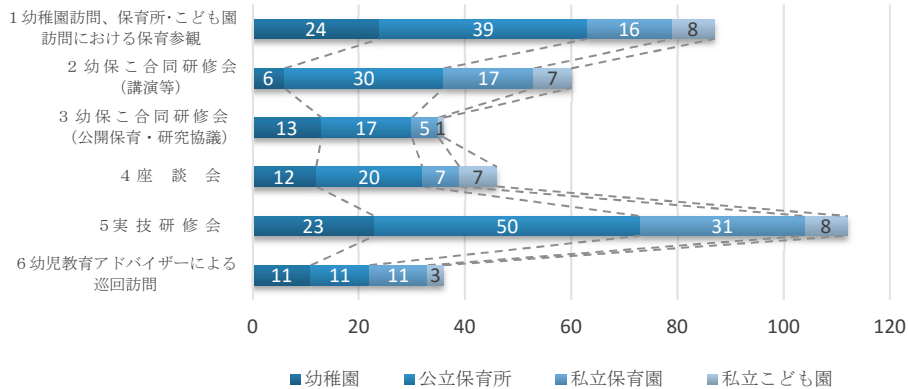
● 来年度も継続したらよいと思う研修会については、すぐに保育に活かせることのできる実技研修の要望が高い。専門の講師に指導を受けることで教職員自身のスキルも向上していくが、参加できる教職員の人数に限られるので、研修会を実施する時間帯や研修に参加した教職員が園(所)全体の学びに繋げる方法を探っていき、教職員全体の資質向上につながるように考えていきたい。参観記録や研修記録を回覧することで少しずつ学びが広がりつつあるので継続していきながら、より伝わりやすく、教職員の負担感が軽減するような記録についても幼児教育アドバイザーと連携しながら進めていきたい。またこのアンケート結果を幼児教育アドバイザー共有し、成果と課題について検証しながら今後の研修の在り方を探ってきたい。

【アンケート結果より】調査時期：平成30年10月

▼調査対象：教職員・・・174名



来年度も継続したらよいと思う研修会について



5. 事業終了後の展望

- 市幼児教育アドバイザーを4名配置し、各園(所)からの要望を踏まえた巡回訪問を継続する。30年度に引き続き、幼児教育アドバイザーに訪問記録を依頼し、指導方法を今後の主任等の指導力向上に役立てるようになる。また、主任がアドバイザーの巡回訪問に同行し、保育内容等に関する指導や助言の方法を学び、自園(所)の指導に活かせる体制を構築していく。
- 引き続き、幼保こ合同研修会についての連絡調整は指導主事が行う。年間計画を作成することで、研修会に参加できる体制を作り、より多くの職員が参加できるよう研修内容や時間設定を工夫していく。また、研修で学んだことが参加者のみの学びにならないように、研修報告の様式を検討し、研修報告や資料等を自園(所)で回覧し職員全体の学びにつながるように周知していく。
- 保幼こ小理解研修会(年1回)を継続して行い、幼児教育と小学校教育の円滑な接続が図れるよう互いの教育の理解と教職員の関係作りを推進する。